



フローチャート：リスク因子と行動 幼児や学童に起こりうる視覚/聴覚問題の疑いを示唆 するリスク因子と行動

子どもの視覚障害に対する懸念

視覚障害のリスク因子を持った子ども：

出生時の低体重（3ポンド未満）
脳性まひ
頭部外傷
聴覚障害*
水頭症/シャント
髄膜炎/脳炎
先天性感染症（CMV など）
未熟児網膜症
発作
視覚障害を疑うような症候

子どもの視覚行動に懸念がある：

家族、（ビジョンスペシャリストを含む）チームに相談します。
小児眼科問題に精通している眼科医による総合的な眼科検査を受けられるようしかるべき照会を行います。
皮質視覚障害（CVI）の検査または機能評価が盛り込まれている機能視覚評価を要請します。

子どもに顕著な視覚問題が見られる：

眼科医や機能視覚評価の報告書および提言を入手して確認します。

子どもの聴覚障害に対する懸念

聴覚障害のリスク因子を持った子ども：

発話/言語の遅れ
聴覚に対する親の懸念
聴覚障害の家族歴
早産児/NICU（新生児集中医療室）での滞在が5日超
先天性感染症（CMV など）
細菌性髄膜炎
頭蓋顔面異常
聴覚障害に関連する症候
耳毒性薬（ゲンタマイシン、ラシックス、化学療法）
頭部外傷

子どもの聴覚/発話行動に懸念がある：

家族、（ヒアリングスペシャリストを含む）チームに相談します。
小児眼科問題に精通している聴覚専門医による総合的な聴覚検査を受けられるようしかるべき照会を行います。
聴覚情報処理障害（CAPD）の検査または機能評価が盛り込まれている機能聴覚評価を要請します。

子どもに顕著な身体機能問題が見られる：

聴覚専門医や機能聴覚評価の報告書および提言を入手して確認します。



子どもの視覚や聴覚に懸念がある場合にすべき次のステップ

教育ニーズに影響を及ぼす視覚障害の診断を受けた子どものための基本ステップ

視覚に対する医療関係者/親の懸念

(所見、インタビューまたはASQ結果、リスク因子の存在、望ましくない視力検査結果に基づく)。

入手して確認

機能視覚評価を入手・確認します(そして、教育ニーズへの影響、および教育上採用する戦略を理解します)。

兆候、症候、リスク因子が存在する場合

聴覚障害または聴覚情報処理障害を示唆するような兆候、症候、リスク因子が存在する場合、機能聴覚検査や機能聴覚評価を含め、聴覚障害の評価についての根拠を家族と話し合います。

視覚障害の評価と監視

聴覚障害を評価および監視します(聴覚検査、聴覚専門医による評価、機能聴覚評価)。

さらに

教育上の影響を判断

そして、子どもを全数調査に登録し、OCDBE サービスおよびサポートサービスにアクセスします(次のページ)。

教育ニーズに影響を及ぼす聴覚障害の診断を受けた子どものための基本ステップ

聴覚に対する医療関係者/親の懸念

(所見、インタビューまたはASQ結果、リスク因子の存在、望ましくない聴覚検査結果に基づく)。

入手して確認

機能聴覚評価を入手・確認します(そして、教育ニーズへの影響、および教育上採用する戦略を理解します)。

兆候、症候、リスク因子が存在する場合

(皮質/大脳を含む)視覚障害を示唆するような兆候、症候、リスク因子が存在する場合、臨床と機能双方について、視覚障害の評価についての根拠を家族と話し合います。

聴覚障害の評価と監視

視覚障害を評価および監視します(眼科医による評価、機能視覚評価)。

さらに

教育上の影響を判断

そして、子どもを全数調査に登録し、OCDBE サービスおよびサポートサービスにアクセスします(次のページ)。



既知の視覚/聴覚障害を抱えた子どものためにすべきこと

教育ニーズに影響を及ぼす視覚障害の診断を受けた子どものための基本ステップ

眼科医による報告書および提言を入手します。

機能視覚評価を入手します（そして、教育ニーズへの影響、および教育上採用する戦略を理解します）。

しかるべき視覚サービス（VI、O&M）と配慮や便宜をIFSP/IEPに追加します。

必要な視覚関係の配慮や便宜を全チームに周知します。

視覚の変化を監視します。

パートCおよびBプログラミングにIFSP/IEP移行計画における視覚関連のニーズが組み込まれるよう徹底します。

視覚障害（眼科医による評価）を評価および監視します。

片耳性か両耳性か程度に関係なく、聴覚障害と診断されたら、Ohio Center for Deafblind Education（オハイオ州盲ろう者教育センター）に連絡します。

IEPでしかるべき教育カテゴリーとして盲ろうを考慮します。

聴覚の変化を監視します。

教育ニーズに影響を及ぼす聴覚障害の診断を受けた子どものための基本ステップ

聴覚専門医による報告書および提言を入手します。

機能聴覚評価を入手します（そして、教育ニーズへの影響、および教育上採用する戦略を理解します）。

しかるべき聴覚サービスと配慮や便宜をIFSP/IEPに追加します（Regional Infant Hearing Program（地域乳幼児聴覚プログラム）、教育オーディオロジー、Deaf/HHの教職者、コミュニケーションニーズ）。

必要な聴覚関係の配慮や便宜を全チームに周知します。

聴覚の変化を監視します。

パートCおよびBプログラミングにIFSP/IEP移行計画における聴覚関連のニーズが組み込まれるよう徹底します。

聴覚障害（聴覚検査結果、聴覚専門医の報告書）を評価および監視します。

聴覚障害に加え視覚障害と診断されたら、Ohio Center for Deafblind Education（オハイオ州盲ろう者教育センター）に連絡します。

IEPでしかるべき教育カテゴリーとして盲ろうを考慮します。

聴覚の変化を監視します。

盲ろうの場合